

○家政教育系の実験・実習安全マニュアル

家政教育系における実験・実習は、被服科学実験、被服学実習、食物学実験、調理学実習、住居設計・製図、住居学演習、卒業論文、修士論文等、衣食住等生活全般に及び多様なため、ここでは基本的な注意点を挙げる。詳細は、各担当教員の指示に従うこと。

1 実験・実習の場合

1. 1 実験・実習開始前の心得

- (1) 実験・実習で大切なことは、計画的かつ冷静に作業を進めていくことである。従って、遅刻せず、余裕をもって準備に取り掛かることが大切である。例えば、余裕のない状態で実験を開始すると事故を引き起こす可能性が高くなる。
- (2) 実験・実習室に入る際は、白衣を着用すること。着用目的は衣服を汚さないことと危険防止のためである。頭髮の長い場合は束ね、実験・実習の種類によってはマニキュアなども支障をきたすので注意が必要である。履き物については、実験・実習中の移動その他において危険のないものを選ぶこと。実験・実習台上や足下に鞆、コートなどを置いたまま実験・実習をすると危険なので、必要なもの以外は実験・実習室に持ち込まないこと。
- (3) 実験・実習を始めるにあたり疑問に思うことは担当教員に質問して事前に確認し、不安のないようにしておくこと。個々の判断の不適切さから事故につながることもある。

1. 2 実験・実習中の注意

- (1) 実験・実習は共同でおこなう場合が多く、常に周囲に多数の人がいて、同じような行動をとっている。自分の実験・実習に気をとられて周囲に注意を払うゆとりの無い時に事故が発生する。従って、自分の実験・実習に気を配ると同時に他者の行動や周辺の環境にも気をくばることが大切である。
- (2) 実験室には危険な薬品や引火性の溶剤があるので、取り扱いについては担当教員の指示に従うこと。例えば、引火性の溶剤を使用しているそばでガスに火をつけてはならない。実験室火災の大きな原因になるからである。
- (3) 調理学実習では常時、刃物・ガス火・熱湯・熱した油を使用するので、事故や火災の防止に細心の注意を払うこと。また、実習室の床は水に濡れると滑りやすいので、実習中は床に水をこぼさないよう留意し、こぼれたときはすぐに拭いて、常に乾いた状態にしておくこと。
- (4) 調理学実習では食品を扱うので、食中毒防止のため、食品材料や調理器具、食器は衛生的に取り扱い、手指を清潔に保つことも大切である。

1. 3 実験・実習終了時の注意

- (1) むやみやたらに薬剤等を捨ててはならないというのは実験の常識と言うまでもない。実験廃液は、学内規定に従い処理するため、担当教員の指示に従うこと。
- (2) 実験・実習のために使用した道具は、もとの場所に戻すこと。例えば、縫い針等は、怪我の原因になりやすい。

- (3) 実験・実習終了後は、電気・ガス・水道などの点検を行い、次に使う人が安全に使用可能な状態にしておくこと。
- (4) 調理学実習終了時には、決められた方法でごみの処理・分別を行い、所定の場所に廃棄すること。

2 その他の活動

授業で学外における生活関連施設の見学やフィールドワーク等に出かける場合には、各担当教員の指示に従うこと。交通ルールを守り、必要な場合には傷害保険に加入すること。